

2019 A 日程 LS [0708]

受験番号

2018 年度秋入学・2019 年度春入学 甲南大学法科大学院

一般入学試験問題

専門論文試験

民法・商法

(120分)

**受験についての注意**

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は2ページである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は、民法、商法各1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 解答は、該当する科目の解答用紙を使用すること。解答用紙を誤った場合、その答案は無効となる。
5. 答案は、横書きとする。
6. 答案は、実線内の番号に従って書き進めること。
7. 答案は、黒ボールペン（但し、フリクション等の消せるボールペンは不可）または黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された答案は、無効となる。
8. 答案を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直すこと。
9. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
10. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

## 専門論文試験 民法

### 〈問題 1〉

以下の【事例】を読んで、〔設問〕に答えなさい。

#### 【事例】

Aは、Bから、神戸市に所在するB所有の甲土地を建物所有目的で賃借したが、契約締結直後に1年半の海外出張が決まったため、建物建築を延期した。出張を終えAが帰国すると、AもBも知らないCが甲土地に無断でプレハブを建てて占拠していた。

#### 〔設問〕

AがCに甲土地の明渡しを求める方法としてどのようなものが考えられるかを述べ、本件でそれが認められるかを検討しなさい。複数考えられる場合は、それら全てを挙げなさい。

### 〈問題 2〉

以下の【事例】を読んで、〔設問〕に答えなさい。

#### 【事例】

Xは、Yから、京都市に所在するY所有の丙建物を、賃料月額20万円で賃借し居住していたが、6か月の海外出張が決まったため、いい機会だと思って、以前より京都に憧れていた兄のZ夫婦に、出張中の6か月間、Yに無断で、丙建物を賃料月額10万円で転貸し、Z夫妻はXの出張後ただちに丙建物に移り住んだ。

Zが丙建物に居住し始めてから2か月経ったころ、Yは見知らぬ人物が丙建物に居住していることに気づき、問い質したところ、自分はXの兄で、Xが海外出張中の6か月間だけ丙を借りているのだという。

#### 〔設問〕

Yは、Xが丙建物をZに無断で貸したことを理由に、XY間の賃貸借契約を解除することができるか。

## 専門論文試験 商法

### 〈問題〉

以下の【事例】を読んで、〔設問1〕〔設問2〕に答えなさい。なお、いずれの設問においても、独占禁止法違反そのものについては「法令違反」と評価すれば足り、解釈論等について触れる必要はない。

### 【事例】

P株式会社(以下、「P社」という。)は、Q株式会社(以下、「Q社」という。)の総株主の議決権の15パーセントを有しており、Q社はP社の株式を有していない。両社はP社を吸収合併存続株式会社、Q社を吸収合併消滅株式会社とし、2018年7月31日を効力発生日とする吸収合併を行うことで合意した。2018年2月1日に両社は吸収合併契約を締結し、同年3月30日に両社の株主総会で承認を得ることとされた(以下、「本件吸収合併」という。)。ところで、両社は同一の事業を営んでいたところ、本件吸収合併は両社の市場占有率が大きいことから、「当該合併によって一定の取引分野における競争を実質的に制限することとなる場合」に該当するとして、独占禁止法(「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律」)15条1項1号に違反する可能性が高かった。同年3月15日に株主総会の招集通知を受け取ったQ社の株主Xは、本件吸収合併の条件がP社に著しく有利だと考えている。

### 〔設問1〕

Xは本件吸収合併の効力が生ずる前に、その効力を生じさせないための会社法上の手段を執りたいと考えている。いかなる法的手段を執ることができるのか答えよ。

### 〔設問2〕

本件吸収合併の効力が生じた後に、Xがその効力を争うための会社法上の手段について論ぜよ。